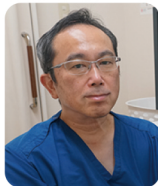


# 肺癌について

今回は日本呼吸器外科学会専門医、松田英祐医師に「肺癌」について伺いました。



▲松田英祐 医師

肺がんの罹患者（新たに肺がんと診断される人は年々増加しており、年間で約120000人と報告されています。2020年には約70000人の方が肺がんで死亡しており、男性では最も、女性では大腸がんの次に死亡率の高いがんです。進行度によってI期、II期、III期、IV期に分類され数字

が大きいほど手術ができる可能性は低くなり、死亡率も高くなります。早期、IV期に分類され数字

期に発見が重要なのはこのためです。肺がんの発見動機としては、検診や他の病気の治療中に肺に異常な影を指摘された、症状があつて検査をして発見される場合に大別されます。咳や痰、呼吸困難など症状が出現した場合では進行して手術不能な状態になっていることもあり、このことから検診が推奨されます。40歳以上の方には胸部X線写真での検診が推奨されています。肺がん検診を受けるようにしてください。

年齢別では60歳以降から肺がんの罹患者が急激に高くなります。60歳以

上では50代未満よりも併存疾患を伴うことが多くなり、肺がん治療にも大きく影響します。特に脳梗塞や心筋梗塞の既往、長期の喫煙歴は肺炎をはじめとした副作用や合併症を引き起こす因子であり、これらは手術を断念または延期しなければならぬ原因になりえます。高血圧や糖尿病などの生活習慣病は脳梗塞や心筋梗塞のリスク因子ですが、治療をすることでリスクを軽減することができます。日ごろからかかりつけ医をもち、生活習慣病を予防する必要があります。また、喫煙は肺がん罹患の重大なリス

ク因子であり、肺がんの治療による合併症を起す要因にもなります。肺がんによる死亡率を下げるには、検診を受け、かかりつけ医を持ち生活習慣病を予防するようにしましょう。また喫煙はしないように強く推奨します。肺がんの疑いと言われた場合には済生会病院の呼吸器内科、呼吸器外科にご相談ください。

ク因子であり、肺がんの治療による合併症を起す要因にもなります。

肺がんによる死亡率を下げるには、検診を受け、かかりつけ医を持ち生活習慣病を予防するようにしましょう。また喫煙はしないように強く推奨します。肺がんの疑いと言われた場合には済生会病院の呼吸器内科、呼吸器外科にご相談ください。

社会福祉法人 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号 <https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

